

# JIA長野県クラブ 48

社団法人 日本建築家協会

2001. 5. 1



▲伊東豊雄氏を講師に迎えた第9回文化講演会



▲講演する伊東豊雄氏



▲学生卒業設計コンクールの審査会風景



## 第2回賛助会員サミット

監査 渡辺一成

3月21日、目白椿山荘にて開催された賛助会員サミットに参加しました。開会宣言後の村尾JIA会長の基調講演「地球環境と20世紀型成長の限界の中で、持続可能な発展のために建築界・JIAのあり方」を拝聴し、全国賛助会員サミットはスタートした。

講演要旨は、建築業界の変質と縮小が進み（建築業界のGDP比が欧米並みの8%台に減少）、日本もやがて先進国化し、スクラップ&ビルドの終焉が来る。今後望まれるものは、成熟した社会に対応した建築、環境に配慮した建築が要求されてくる。業界のダークなイメージを払拭しフェアで誇りの持てる業界に変質していく必要がある。

公共建築物の入札制度の廃止等、業界の変革、意識改革が望まれる。そして調達方式の多様化、構造改革、価格の適正化をふまえ、自らのリスクで、自らの力で勝ち残る時代になると話された。

講演の内容は今後の展望をも含め、我々賛助会員にとっても指針とも言えるもので大変参考になりました。

続いて、本部各支部（北海道支部、東北支部、東海支

部、北陸支部、近畿支部、中国支部、沖縄支部、関東甲信越支部）の意見発表が行われた。

会員との賛助会活動を通じての関わり、支部独自の活動計画等の発表もあり、各々の立場を理解し合いながら信頼関係を築き上げる努力が感じられた次第です。

賛助会員が、自主的かつ能動的に活動に参加することで正会員との接点が増幅され、相互交流によってより一層の信頼関係が図れ、会員企業各社の発展が図れるのではないのでしょうか。また技術パートナーとしての共同作業による信頼関係もビジネスチャンスへと繋がっていく形の一つだと思います。

最後に、今後の更なる会員各位との関係の持続を願い、本会議で採択された声明文を記し結びとします。

### 声明

全国の正会員、賛助会員はお互いの立場を理解し合い、それぞれが抱える問題を正しく認識し、自発的、かつ協調性のある活動を通して、21世紀におけるJIAの継続的發展に寄与するため、本サミットを「全国賛助会員の集い・全国交流サミット」と改名し、持続する。



## 第9回文化講演会 建築は自分の子供のようなもの

吉川 一久

諏訪n設計企画

伊東先生の講演を聴くのは下諏訪町立博物館が完成した際、博物館の中でお聴きして以来でした。その時の印象は当地出身の先生の原風景は諏訪湖の風景であり小さい頃諏訪湖の湖面と水平に水平虹が見えることがあって、それは美しい景色だったというロマンチックな話を聴いて以来、淡々とした口調とやさしい風貌のロマンチスト伊東豊雄というイメージが私の中にありました。

さて今回の講演は、建築とは自分の子供を育てる様な物でエスキスの時にはこの子は天才だと思う。基本設計ぐらいになるとノーベル賞は無理かなと思う。子供と一緒にどんどん育っていく、社会の中でだんだん変わっていく、そして出来た時には自分を見返す存在になる。そんな名言の後、松本市民会館建て替えに関するコンペとその後の状況について、また最近完成したせんだいメディアテークで考えたこと、設計及び施工の段階での苦労談を話して頂きました。

松本のコンペはA1サイズ1枚にまとめれば何でも有りのエスキスコンペだった。1,800席のオペラホールと250席の小ホールと付属室から成る構成。軸線を作るとそれに沿ってしまうので強い軸線とせずに波紋のように広がる空間構成とし、リハーサル室は庭園のある屋上に設け、パーティ会議にも使用可能との事。また2階のホワイエへ上がる部分の開口部は透明で無く、緑が気配で感じられる様にしたいとのこと。城下町松本にどんな建物ができるか完成が楽しみです。

せんだいメディアテークは1994年のコンペから6年かけた大作です。ガラスの建物を作りたかったのではなく壁のないもの仕切りが無い建築の提案をしたかった。イメージとしては水槽に浮いているキューブ。13本のキューブとフラットスラブの構造によりフレキシブルな空間ができています。メディアテークってなんだろうから始まり市民や利用者と共に考えながら作ったのがよかった。自分で全てを決めるのではなく人と出会った時に変わっていく、そういう事を大切にしたい。建築に関わった人皆が自分がこの建物を作ったんだと思っているとのこと、仙台のけやき並木にイルミネーションが光るころ行って見たいと思います。

最後に次のことばを残して講演会は終わりました。建築を自分で表現する時代は終わった。建築が作られたことにより社会が見えてくる様な物、鏡の様な物で有りたい。



## 第8回JIA リフレッシュセミナーに参加して

丸山 幸弘

館KAN設計工房

3月4日から6日まで熱海リフレッシュセンターにて開催。当日長野は突然の雪、なんとか熱海までたどり着き受付をすませました。早速、第1日目：セミナー1では建築家で東京都港区長でもある原田敬美氏の講義でした。「発注者から見た建築家」というテーマで、行政側から見た建築家像について講義していただきました。建築家は存在感がない、政治力がない、訴えていることが伝わってこないなどズバズバと語られ行政と我々とのギャップを痛感しました。

2日目：セミナー2では藤森照信氏が「モダニズムの根本的問題」について講義。歴史に残る建築とはどのような建築なのか？「一般の方から見た残さなければならない建築と我々が残さなければならないと思う建築とは全く違う。より地方性が強い作品ほど一般の方に理解され残さなければならない」と分りやすく話された。グロピウス、ミース、コルビジエ、ライト、ガウディ時代の建築の流れを引用され、大学時代のような講義に懐かしく楽しい時間を過ごしました。

セミナー3は、小野田泰明氏による講義でした。伊東豊雄氏設計の仙台メディアテークの仕掛け人です。小野田氏は建築家でなくプロデューサーという仕事（彼は映画監督とか、脚本家と言っていました。）を楽しんでいるようでした。「建築家と行政などのパイプ役でこの部分が重要である」と言っていました。この部分を「公共圏」と呼んでおり、これからの公共建築に必要な部分ではないかと感じました。特に当クラブが主催した伊東氏の講演会を聞いたばかりだったので、非常に分かりやすく楽しく講義を受けました。

3日目：前日に全講義が終了。各セミナーに別れグループディスカッションした結果をそれぞれ発表しました。各グループとも白熱した様子で、時間がオーバー。全日程が終了した後、記念写真を撮って解散しました。

実はセミナー以上に白熱したのが、セミナーの合い間の時間でした。日本各地から来た皆さんは個性的でとても楽しい方々でした。主催者のJIA教育研修委員会の皆さん、委員長の横河健さん、国広ジョージさん、椎名英三さん、千葉学さんとの話は特に楽しかった。これは参加した者の特権でしょう。チャンスがあればまた、皆さんと会いたいものです。



## ルイスカーンについて思う

東濱 四雄  
㈱東浜設計

昨年3月に入会しました東濱です。入会と同時に原稿依頼があり「未だ」JIAの内容等も理解してないのでとお断りさせて頂きましたが1年後、再度依頼があり受諾させて頂きました。何を書けばよいのか迷っている時「JIANEWS」が送付されて来ました。開封すると中にルイスカーンの書籍紹介のパンフレットが同封されており、私にとって大変懐かしく思い出される人物でした。26年前、安給料の私が初めて購入した建築雑誌が「ルイスカーン」の作品集でした。これも何かの縁であると思い「ルイスカーン」について述べさせて頂く事にします。

カーンは1901年2月20日エストニア・オーゼ島に生まれ1974年3月17日インドからの帰途ニューヨーク・ペンシルバニア駅で心臓発作により死亡。そんなカーンは少年時代一命に係わるほどの火傷を負ったり、移民の苦難に耐え、戦後はこれと言った仕事もない時代を生き抜き、50歳を過ぎた頃、イェール大学の作品を手がけ、これが世に出た第1作目の作品となった。それからのカーンの作品は20にも満たない。

カーンの作品であるダッカ国際会議場、アラブ国立病院、インド経営大学これらのカーンの代表する作品は、いずれも外壁にレンガタイルを張ってありそのタイルの目地からはレイトンが染み出しており、デザインも「重厚感」と言うより「ごっつい」と言う感じで、どう見ても私の目には砂漠の中の軍事基地にしか映りませんでした。それから10数年が経ったある日カーンの事を書いてある雑誌が目に入りました。それによると「カーンの建築理念は沈黙・重厚・不動・持続である」と書いてあり、カーンは4つの理念に基づいて作品造りをしており、その4つの理念が建物に表されているのが分る。

しかし、なぜ理念が沈黙・重厚・不動・持続なのだろうか？理念自体暗いイメージである為、建物も先程述べたように暗く軍事基地を思わせる様に映るのだろうと私は思います。ゴシック建築自体が重厚さの代名詞みたいなものですが、フランクロイドライトの作品は建物をまとめ、屋根は寄せ棟とし、繊細な直行軸の広がりによるデザインを試みており、重厚さは感じるがカーンの作品に比べ暗さは感じられない。二人を比較すればライトに共感する人がほとんどではないでしょうか？確かに作品だけを比較すれば私もライトの作品を選ぶと思いますが、私はカーンが既成概念にとらわれず自身の経験によって新たな手法に基づいた造形を生み出している所に共感します。



## 建築について

矢沢 育宏  
日本屋陶器瓦協業組合

私は、理由あって愛知県よりこの長野県に移住して7年が過ぎました。愛知県に住んでいた頃、車業界に身をおいていたせい、車にしか興味がなく、建築について意識が全くありませんでした。

長野県にて建築業界に携わり、人と人のふれあい、地域文化を通してみると、1棟1棟、個性のある和風建築が似合う地域だと思いました。無から有を産み出す設計士の家に対する熱い思いと、お施主様のわがまま、希望が、理路整然と取り込まれ、世界に一つだけの宝物、住宅が誕生することが徐々に私も発見でき、奥の深さを感じます。しかし、現在ハウスメーカー独特の営業力、宣伝PRに伴い、レストランにあるメニューの如く、施主がこの建物にしようとして一目見て決められる形式による同じ建築物が目立つようになり、少し寂しさを持っております。長野県の長い歴史と伝統を受け継いだ建築、そこには最高の技術と品質の屋根材「陶器瓦」がかみ合い、より一層の快適さを生むでしょう。最後に設計に携わる先生方と私共賛助会のメンバーでさらなるPR活動に取り組んでいきたいと思っております。



## 家と人の環境問題を考える

小島 正己  
リリカラ㈱松本営業所

シックハウスという言葉を目にする事は今や珍しくなくなりました。我々インテリア業界では早くから壁紙、接着剤においてホルムアルデヒドを低減させた商品を開発してユーザーに対して、その安全性をアピールしている。

最近ではカーテンのカタログにも「低ホルムアルデヒドの商品収録」と表示していることなどは、ユーザが選ぶ時の大きなチェックポイントとなる為であろう。

一方、環境問題も日常レベルの話題となったようだ。特にゴミ＝ダイオキシンという構図が頭の中に出来上がり「脱塩ビ」が叫ばれ我々の業界も大きな方向転換を余儀なくされている。このような風潮の中「健康住宅」が注目を浴び、住宅メーカーもそれをセールスポイントとしているところも少なくない。

このような流れの中で本当に家は昔に比べてどんどん健康になっているのだ。しかしそれに比べると人はなんと弱くなってしまったのだろうか、シックハウスには換気が一番効果的であるにもかかわらず窓を開けると花粉症でますます不健康になってしまうとは…。

## クラブインサイド

### 第9回文化講演会 片倉隆幸

2月27日、松本市のプエナビスタで開催。建築家の伊東豊雄氏を迎えて講演会は満員となった。氏の近作の中から、6年の歳月をかけた仙台メディアテークの壁のない空間をいかにつくりあげるかを説明、松本市民会館もそうであるが、ホールとまわりを繋ぐ余韻と社会の関係がいかに大事かを語り、その成長を一緒に見守りたいと語った。

### 第6回正副会長・委員長会 松下重雄

3月12日、ルートイン松本インターにて開催。12年度決算は昨年並みの繰越し見込みであることを報告した。支部委員会出向者の改選は、会長に検討を一任。13年度事業計画も協議した。あすなろ建築展と文化講演会はセットで2月に開催。年間を通じてシリーズ研修会を主軸事業に据え、CPD単位取得をしやすい事も計画(会長と久保委員長で素案作成)している。

### 第4回情報特別委員会 関邦則

3月12日、松本市のホテルルートイン松本インターにて開催。懸案の「愛と情熱の家づくり」vol.2の企画は編集チームの応募がなく、委員会で作業を担当することになった。編集パートナーや個人の費用負担などについて意見交換を行ない、具体的に動き出すことにした。

### 学生卒業設計コンクール2001審査会 児野登

4月13日、松本勤労者福祉センターで開催。大学、専門学校、高校各部門の入賞作品を決めた。今回で第10回目を迎えて新しく中野実業高校土木科建築コース、上田情報ビジネス専門学校建築CAD科の参加を得た。応募は大学の部は信州大学から6点、専門学校3校から6点、高校5校から13点。審査は、藤森照信(委員長)、柳澤孝彦、柳沢京子、宮本忠長、松下重雄の各氏が務めた。

### 2001年度通常総会へのご案内 関邦則

今年の通常総会は来る5月18日(金)に長野市のメルパルクNAGANOにおいて開催します。記念講演会はヨーロッパで活躍する現代建築家の作品などを撮影している写真家の木田勝久氏をお招きして、その充実した写真を見せていただくことになっています(詳細はチラシをご覧ください)。万障お繰り合せの上ご出席下さい。

## クラブアウトサイド

### 第6回本部地域委員会 出澤潔

1月30日開催。「地域会の意義と位置付けについて」全国各地域会会長からの意見をもとに討議する。各会長の認識と意見に大きな差異があり、内容の検討を改めて行うことに異議をなさむ委員が出るほどであった。様々な面から再修正し、理事会への提案書を決定した。

## 第8回支部業務委員会

関邦則

3月8日開催。去る2月の地域サミットで、各地域会への訪問などについてお願いした結果が報告された。地域会とのパイプをつくるため、アンケートを進める旨の説明があった。業務に対する意識について地域差の実態が把握できるものと思われる。

### 第4回地域サミット 松下重雄

2月18日、山梨文化会館にて開催。JIA東京地域会の発足が報告された。公益法人問題について、基本政策会議による支部「会員集会」開催について報告があった。賛助会員サミットへの参加要請、アーキテツガーデン2001のあり方について協議。地域委員会の意義と位置づけを会員全体に浸透させるべく、本部理事会審議を経て総会決議を要請する。

### 第6回支部役員会 出澤潔

3月7日開催。役員会に先立ち監査会議が開催され今期の決算予測について審議。井澤公認会計士の提案を受けて役員会に検討事項が提出された。役員会は時間を延長して行なわれ、今期決算、今後の財務、アーキテツガーデンの実施方法、CPDの地域会プログラムの設定について審議が行われた。

## 第8回支部総務委員会

久保隆夫

2月21日開催。継続議題として財政問題(本年度決算見込み・地域活動費・事業助成費等の方針)、各委員会の整理・合理化、および支部WG委員規定の見直しなどについて討議、年度内に答申される予定。

## 第2回賛助会員サミット

小野澤秀世

3月21日、東京の椿山荘で開催。当クラブからは高橋交流委員長、坂田賛助会長、渡辺監査役、小野澤の4名が出席。北は北海道、南は沖縄支部までの各代表と東京勢約200名が参加し盛会であった。冒頭約45分間村尾成文JIA会長が基調講演。演題は「地球環境と20世紀型成長の限界の中で、持続可能な発展の為に建築界・JIAのあり方」。日総建の前島氏が議長を務めた。いづこも悩みは多いが姿勢は前向きだった。最後はサミット声明が発議、採択され終了した。本会の名称が全国交流サミットとなった。次回は金沢で開催される。



JIA長野県クラブ

編集人 依田政司  
発行人 松下重雄  
発行所 JIA長野県クラブ  
長野市南長野妻科  
426-1  
長野県建築士会館内  
TEL 026(232)3897  
FAX 026(232)5303  
作成 新建新聞社

皆様からの投稿をお待ちしております。誌面へのご意見もお寄せ下さい。